

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 3 月 30 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程(5年一貫制)学生
氏名	大塚亮真

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
新潟県中頸城郡妙高高原町杉ノ沢村笹ヶ峰	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
笹ヶ峰実習	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 29 年 3 月 22 日 ~ 平成 29 年 3 月 26 日 (4 日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学笹ヶ峰ヒュッテ 杉山先生	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>今回私は PWS の笹ヶ峰実習(積雪期)へ参加するため新潟県妙高市の京都大学笹ヶ峰ヒュッテを訪れた。この実習を通じて山スキーの技術、イグルー作りの方法を学び、積雪期の笹ヶ峰ヒュッテ周辺の植生や痕跡を観察した。</p> <p><b>【日程】</b>            3月22日：京都駅→金沢駅→上越妙高駅→妙高高原駅→京大ヒュッテ、装備確認            3月23日：スキーを履いて歩く練習、牧場小屋下の斜面を滑走/イグルー作り            3月24日：スキーで歩いて池まで行きカモの観察、溜沢の上まで登り滑走/ヒュッテから直滑降の練習            3月25日：スキーで黒沢まで登り滑走、雪合戦、雪像作り、野外調理実習、焚き火            3月26日：掃除、片付け/京大ヒュッテ→妙高高原駅→上越妙高駅→金沢駅→京都駅</p> <p><b>【1日目】</b>            妙高高原駅からバスに乗りどんづまりまで行き、杉山先生と山岳部メンバーと合流後、雪上車に乗って京大ヒュッテを目指した。例年は途中で雪かきをしていたようだが、今年は運良く除雪車があったため簡単にヒュッテにたどり着くことが出来た。ベランダからヒュッテの中に入れるくらいに雪が積もっていて夏の景観とはまったく異なっていたことに驚いた。夕食後、各自装備を点検・調整し、山スキーの装備の特徴やシールの貼り方を山岳部の方々から教えていただいた。</p> <p><b>【2日目】</b>            6:00 起床で朝食を済まし 8:00 から行動開始(実習を通してこのペースだった)。まず山スキーの板に乗って歩き方を練習した。最初はかかとが上がることに違和感があったがすぐに慣れることが出来たと思う。骨盤をしっかりと固定して足を滑らせるイメージで動かすと力みなく自然に歩くことが出来た。途中ウサギの足跡やシカ(あるいはカモシカ)のものと思われる足跡を発見した。牧場小屋に到着するとゲレンデスキー経験者はすぐ近くのやや急な斜面に残り練習をしてみたが、深雪で滑るのには後傾気味になる必要があり、またターンも我慢が必要で苦戦した。お昼前にヒュッテに戻って昼食をとった後、ヒュッテ前でイグルーをつくった。まずブロックを切り出す部分を十分に踏み固め、ノコギリとシャベルを使ってブロック(できるだけ大きさを均一にそろえ、かつ硬いものを選んだ)を切り出し、積み上げていった。我々PWS 男組は松沢先生のご指導のもと、ブロックの積み方(とくに内径させる角度とブロック同士の接着面)にこだわりとても頑丈で美しいイグルーを完成させることが出来た。この日は一日を通してとても天気の良い日であった。</p>	
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p>	
<p>&lt;平成 26 年 5 月 28 日制定版&gt; 提出先: <a href="mailto:report@wildlife-science.org">report@wildlife-science.org</a></p>	

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### 【3日目】

8:00 にヒュッテを出発し、スキーで歩いて池まで行きカモを観察した。その後涸沢の方へ歩いて登っていき途中からスキーでゆっくりと下ってヒュッテに戻ってきた。午後はヒュッテ前の道路あたりから直滑降で行けるところまで2回滑った。何回もシールをつけたり剥がしたりしたので、しだいに慣れてきて手際が良くなった。他のみんなもかなり慣れてきていたと思う。ヒュッテに戻りお汁粉を食べてから夕食をとった。この日はたまに晴れ間が見えたものの、終日悪天候に見舞われ視界が悪く寒い日であった。

### 【4日目】

朝食を済ませたのち、おにぎりをこさえてからヒュッテを出て黒沢を目指した。一日前と打って変わって素晴らしい好天に恵まれ快適であったが、登っている最中は上着や帽子を脱いだくらいとても暑かった。みなでトップを交代しながら進み、2時間ほどで黒沢に到着した。道中キツツキ（おそらくアカゲラ）の立派なドラミングを3回ほど聞いた。黒沢からはシールを外し、おのおの十分に気をつけながら自分のトレースを見つけたたり、トップの人のトレースをうまく利用したりしながらゆっくりとヒュッテまで降りてきた。ヒュッテ到着後は雪合戦や雪像（芸術作品）製作に勤しみ、また野外調理にも挑戦した。雪を溶かしてつくったラーメンと雪上の焚き火で炙ったマシュマロの味が忘れられない。山岳部チームを合流し、夕食を食べて反省会をした。

### 【5日目】

ヒュッテの掃除、荷物の整理をして 10:00 過ぎに雪上車に乗ってヒュッテを出発した。雪上車で下まで降りて宮前商店にてスキーの郵送のお願いをしたあとランドマークへ行き解散した。その後は、各自温泉に入ったり昼食を取ったりお土産を購入したりしてから帰途についた。

### ○感想

私は北海道出身で子供の頃からスキーを履いていた。高校生の時に何故かスキー熱が再燃し、冬季に野球部の練習が休みになる土日は毎週スキー場に通っていたこともある。しかし、今回の実習で山スキーとゲレンデスキーはまったく違うものであることを痛感した。深雪は後傾気味にならないければ板が滑らないが、自分は後傾になることに慣れておらず思うように滑れない。これには大変苦戦したが、それはそれで楽しめたと、ゲレンデとは違って木の枝があったりアップダウンがあったりと、複雑なトレースを行くのがとても楽しかった。ぜひ今後も機会を見つけて山スキーを楽しみたいし、来年以降の実習にも参加したい気持ちですらいる。

また当初イグルーとかまくらは同じものだとすら思っていたが、かまくらとはまた違ったイグルーの作成方法を学び雪とともに生きてきた人々の知恵を大いに感じた。次回以降参加される方々は甘酒を持参していくとよりいっそうイグルーづくりが楽しめるのではないだろうか。

反省会でも意見が出ていたが、山スキー前のゲレンデ練習は効果的だと思う。板の履き方やキックターン、ボーゲン、エッジの使い方などの基礎をゲレンデで再確認してから山スキーに望むとより高い成果が得られると思った。日程的に調整が厳しければ、実習前に京都府か愛知県近隣で学生企画として履修生数人＋指導者最低1名でゲレンデスキーに行っても良いと思う。

最後に、ささやかな趣味である野鳥観察も今回の楽しみの一つであったのだが、実習中に以下の野鳥を観察することが出来た。最も印象に残っているのは、はじめて聞いたアカゲラのドラミングがとても立派で美しかったことである。

コガラ、ゴジュウカラ、エナガ、コゲラ、アカゲラ (heard)、ハシブトガラス、トビ、カモ (識別できず)

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真1. 雪に埋もれるヒュッテ



写真2. スキーを履いて歩く



写真3. イグルーづくり (角度が大事!)



写真4. イグルーの中は快適



写真5. シカかカモシカの足跡



写真6. 暖炉のおかげでぬくぬくのヒュッテの中

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真7. 野外調理（ラーメン）



写真8. 雪像（芸術作品）の製作



写真9. 一瞬の晴れ間に

6. その他（特記事項など）

今回の笹ヶ峰実習に参加するにあたり、ご支援いただいた PWS に心より感謝申し上げます。またお世話になりました松沢先生、杉山先生、滝澤先生、京大山岳部のみなさん、そして一緒に実習に参加した PWS 履修生みなさんにも感謝申し上げます。